

第1章 都市計画道路見直しの背景

都市計画道路は、国道や主要な幹線道路等と一体的な道路網を構成しており、昭和初期に計画決定されたのをはじめに、都市計画法改正後の昭和40年代後半から50年代に、概ね現在の都市計画道路網の原形が構築されました。

その後、急激な人口増加、経済成長、市街地拡大等を背景に、都市計画道路の決定・変更が行われてきました。

都市計画道路は、都市の将来像を誘導し、円滑な交通環境と良好な都市環境を形成するために計画されるものとなっており、その整備は長期間を要します。

その一方、人口減少や高齢化社会を迎え、経済の低成長など社会経済情勢が大きく変化しているなか効果的、効率的かつ質の高い道路整備が求められています。

本市の都市計画道路の見直しについて、人口減少、少子高齢化、都市防災意識の高まりなどの社会経済情勢の変化ならびに本市のめざすべき都市像に的確に対応し、効率的な道路整備を推進していく必要があることから、将来に向けた都市計画道路のあり方を再構築しつつ、都市計画道路の見直し方針を策定しました。

都市計画道路を取り巻く環境の変化

- | | |
|------------------|------------------|
| ・人口減少、超高齢社会の同時進行 | ・実現すべき都市構造の変化 |
| ・経済の低成長時代 | ・長期未着手都市計画道路の顕在化 |
| ・公共投資余力の低下 | （都市計画道路の低整備率） |



＜整備済都市計画道路イメージ＞



＜未整備都市計画道路イメージ＞

